

## 第 10 回宮代町総合計画審議会議事録

### 1 開催日時

令和 2 年 7 月 30 日（木）午後 7 時 00 分～午後 8 時 30 分

### 2 開催場所

進修館 大ホール

### 3 出席者

（委員）

折原正英委員、並木誠委員、小林俊介委員、佐々木誠委員（会長）、  
保科寧子委員、高津絵里委員、八木橋孝雄委員、松山仁委員、難波悠委員

（欠席）

吉澤久美子委員、秋山高善委員、佐々木敦子委員、鈴木和子委員

（事務局）

栗原企画財政課長、伊東副課長、榎本主幹、小川主査、立見主任

（関係課）

石塚まちづくり建設課長、宮野副課長、高橋主査

（コンサル）

牧野氏

### 4 次第

1 開会

2 パブリックコメントの結果について（資料 1）

3 総合計画基本構想の答申について（資料 2）

4 その他

5 閉会

## 5 議事（要旨）

### （1）開会

佐々木会長 前回5月から久々の開催となった。スケジュールも変更となっているので、そのあたりも含め、皆様のご意見をうかがいながら最終的に良い答申が出せればと思う。

### （2）パブリックコメントの結果について

パブリックコメントの結果について、事務局より資料1を用いて説明を行った。

佐々木会長 意見NO. 1、2についていかがか。  
いただいた意見に対する回答について、「参考とさせていただきます」では意見を出してくれた人は流されたような印象を持つのではないか。もう少し踏み込んでよいのでは。

高津委員 寄せられた意見を見ると、期待を持ちつつも懐疑的な面もあるようだ。これまで積み上げてきた議論や具体的な検討過程が伝わる様な文言を追加してもよいのではないか。例えば会議を何回開催したかなど。

難波委員 「参考とさせていただきます」ではなく、「次回ワークショップを開催した時に参加してください」「提案を募集する際には是非応募してください」など、次につながる言葉があるといいと思う。

事務局 次につながる言葉など、表現を再考する。

佐々木会長 公表のスケジュールはどうなっているのか。

事務局 9月広報で公表予定。8月中旬までには内容を固めたい。

松山委員 「実施計画の中で検討します」と書いてしまってもいいのでは。検討の結果、採用するかどうかは別の問題。

佐々木会長 意見NO. 3、4についてはいかがか。

折原委員 「検討を進めます」「検討します」「検討していく上での参考とさせていただきます」など、使い分けはどうなっているのか。

事務局 修正漏れの部分もあるが、全体的に確認・修正する。

佐々木会長 意見NO. 5～7についていかがか。特になければ内容に関しては修正なしで「参考とさせていただきます」の表現の部分のみ再考していただきたい。意見NO. 8、9についてはいかがか。NO. 8の意見は、単に「対話を重ねる」ととどまらず、方針Hに絡めればより具体的な回答になるのではないか。

折原委員 NO. 9について、ここでは東武動物公園と日工大が連携する話だが、そういったケースにおけるまちとしての立ち位置、考え方を明確にしたほうがいいのではないか。

佐々木会長 意見NO. 10、11についていかがか。

折原委員 基本構想の中に土地利用方針がなぜ入っているのか、普通の人はわか

らないだろう。簡単に解説を加える必要があるのでは。

事務局

高度経済成長期など、日本中の自治体でハード事業が中心だった時代があり、総合計画においても、そうした文脈で、まちづくりの目標と土地利用方針が位置づいていた経緯がある。その後、ハードよりもソフトが比較的重要な要素となる中で、「まちづくりの目標」から「土地利用方針」への流れに違和感を覚えたのかもしれない。しかし、土地利用方針のなかに文言としてはないが、過去に行ってきたハード事業とのつながりや、隣町との道路の接続などを考慮すると、土地利用方針を巻末に掲載するわけにもいかないと考えている。

佐々木会長

ハード事業中心の時代ではなくなってきたというあたりを展開に記載するか。それもいい訳になってしまうようにも思う。

難波委員

事務局として基本構想案の修正はしないということだが、この土地利用方針のところになぜこれがここにあるのかという、今の説明のような内容を2行程度で記載してはどうか。読み流せないほど唐突にこの図がある印象を受けているのではないか。

事務局

少し説明を加える形で修正をする。

佐々木会長

今のご提案のように2章の冒頭のところに少し説明を加えていただければ違和感が緩和されるのではないか。

事務局

現在は文字を中心とした素案であるが、製本時にはデザインやレイアウトなど、もう少し読み手にとってわかりやすいものにしたい。

佐々木会長

最終的に製本される時は、構想だけでなく実行計画も入ってくるのか。

事務局

実行計画も入る。

折原委員

第2章冒頭で、「土地利用のあり方はまちづくりの基本であるため…」など、前置きを入れればよいのではないか。

佐々木会長

時代が変わっている。ハードありきではなく、ソフト面の第3章を先に持ってきて、第2章と入れ替えるという手もあるのではないか。計画の最終版を作り込んでいく中で、章立ても含め変更する余地を残しておいてもよいのでは。議会で通ってしまうと最後に構成を変えるような修正は難しいのか。

事務局

何かを削除するなど、内容に大幅な変更がある訳でないならある程度調整はできる。

佐々木会長

それでは見せ方は今後工夫していただくということで、第2章冒頭には説明の追加をお願いする。意見 NO. 12 についていかがか。財源の確保策について、もう少し踏み込んで説明できないかとも思うが。

事務局

たくさんある事業・分野の中で、あれもこれも、ではなく、この計画に示す構想を達成するのがまちとしての優先順位であり、重点的に取り組む事項であるということである。

佐々木会長

この方は財源について構想で触れられていないことを心配しているのではないか。何かしら違うところで手当てするのか、少し説明があった

方がいいのではないか。人口を増やすのではなく維持していくという考え方の中でどう財源を確保していくのか。

難波委員 官と民で一緒にやっていく、遊休スペースの活用、公共施設の再編なども盛り込まれているので、そこからさらに踏み込んだそもそもの予算に関する心配なのかもしれないが、削るべきところは削る、使えるものは使っていくということをもう少し具体的に書いてもよいかもしれない。

佐々木会長 メリハリをつける前提として財源を減らさざるを得ないということを書くべきだと思う。

事務局 お金が無いからできないという短絡的な思考になってしまうのどうかと思う。

佐々木会長 これについては一任いただき事務局と一緒に検討したいと思う。ご意見があればこの機会に頂きたい。

難波委員 ここに財源、歳入が減少していくことは織り込んでいるということを一文書けばよいのではないか。その上で構想のなかでいろいろな方と協働していきたいということを打ち出していると言われれば、納得はしないかもしれないが、宮代町としての考えは示せると思う。

佐々木会長 集約するように見解を編集してほしい。NO. 12については修正をしないということによろしいか。

折原委員 第2章の前段の文章に「総合的・計画的に進める必要がある」と言うてはいるが、この意見者には伝わっていない。

佐々木会長 第1章と第3章の関係が分かりにくい。第2章を3章の後ろに持つてくるのも手か。

### (3) 総合計画基本構想の答申について

総合計画基本構想の答申について、事務局より資料2を用いて説明を行った。

疑義・意見はなかったため、再度議題(2)について疑義・意見があった。

八木橋委員 P2の上の方にまちづくりの目標の「構想」が4つ掲げられており、下の図にも構想が4つ丸で囲まれている。第3章のP5になると「重点構想」という表現になっている。「重点」という表現は不要ではないか。

佐々木会長 修正としては第3章の「重点」を削除するというだけでよいか。

再び第2章について、説明自体は問題ないと思うが、章の関連性に少し違和感がある。意見に対する見解に、冊子にする際にはそうした部分についてもわかりやすく工夫する旨を追記するのがよいか。

事務局 意見者が納得されるにはその方法しかないように思う。

佐々木会長 答申案の修正をするのか、審議会での意見を見解に記載し、取組みのなかで記載するというどちらかになると思う。

八木橋委員 第2章は第1章のまちづくりの目標に組み込んではどうか。それを前

提として、構想と方針が続く形はどうか。あくまでも目標を達成するための土地利用方針であるとして、第1章に組み込む。

事務局 意外とどの地区がどういう土地の利用方法になっているかは住民でも知らない方が多いので、大事な事ではあると思う。意見の主旨としては、土地利用方針について説明が必要ということだと思うので、最終版までには何らかの説明を追記したい。

難波委員 第3章の構想1、2は土地利用方針と関係が深い内容である。第2章の文章の最後の部分を調整すれば、第3章に上手く繋げられそう。「コンパクトなまち」、「宮代らしい」など、第3章で使っている言葉を第2章でも使えば一番わかりやすいと思う。

松山委員 製本されて、図表が入れば印象は大きく変わると思う。

佐々木会長 第2章の冒頭も、「コンパクトなまちの強みを活かし、宮代らしさを価値として高めていくために、『住み、働き、憩い、育て、ふれあう』といった諸活動にとって共通の基盤である土地について…」のように修正できるか。

事務局 コンパクトなまちの強みを活かし、宮代らしさを価値として高めていくうえで、『住み、働き、憩い、育て、ふれあう』といった諸活動にとって土地は共通の基盤となり、地域の発展や市民生活と深いかわりを持っています。…」のように修正を図る。細かい文言は会長と調整させていただく。

難波委員 どの方針をどの区分エリアで達成するか整理はしていない旨を注意書きしてもよいかもしれない。

事務局 最終的な段階でそういった文言を追記することも考える。

#### (4) その他

答申について、今後の総合計画審議会の予定について事務局より説明があった。以下のような意見・感想があった。

佐々木会長 最後一言ずつ感想をお願いしたい。

折原委員 町民の意見を受けて修正することはあまりないように思うが、きちんと受け止めて修正を行うということで、民主的な住民参加ができたのかなと思う。

並木委員 こうしてパブリックコメントが寄せられて、まだまだ町にも思いを持った住民がいるのだなと思った。ここまで審議に携わることができて非常に勉強になった。

小林委員 新型コロナウイルスの件では非常にご心配をおかけし申し訳ない。地域に根付いた東武動物公園でいきたいという思いを持って参加させていただいたが、そういった活動や取組みの将来的なエッセンスを得られた場であったと思う。

- 難波委員 審議会の開催方法も先進的で戸惑う部分もあったが、非常に興味深く関わらせていただいた。宮代町はこれまでも積極的に町民参加を進めてきたことが今回の審議会にも反映されていたのかなと思う。貴重な経験となった。
- 高津委員 若者代表、子育て世代代表として意見を言わせていただき感謝申し上げます。今回のコメントを読み、宮代町には積極的な町民が多いのだと実感するとともに、妊婦やワンオペで子育てをこなしている人など、なかなか意見を伝える方法がない人達の声をどうやって吸い上げていくかというところも、今後の事業に期待している。オンライン上の会議など、最先端の試みを皆さんと体験することができ楽しかった。
- 八木橋委員 総合計画の審議会に参加することができ、さまざまな意見に触れ、述べることができ非常に充実した時間であった。まちづくりの目標に向けて、私自身の活動エリアである山崎山で何ができるか、できる範囲で取組んでいきたい。また、町民として他の分野で本当に計画が進行しているかチェックしながら意見が述べられる場があればよいと思っている。
- 保科委員 参加させていただき感謝申し上げます。宮代町の目標のなかで「人を大切にす」というコンセプトは素敵だと思っている。ひとつの目標に向かってさまざまな立場の方が遠慮なく意見を出しているのが、他の市町村に比べ本気で話し合う姿勢が見え、宮代町が良くなっていく希望を感じさせていただいた。
- 松山委員 今回のパブリックコメントを受け、方向性が間違っていなかったことを実感した。計画を実行していくことが大事なので、これから町民として何ができるか、自治会のあり方を含め考えていきたい。
- 事務局 (まちづくり建設課) 総合計画と並行して都市計画マスタープランの策定を進めている。皆様から頂いた施策の内容については、随時企画財政課より詳細な報告を受け、現在推敲の作業を進めている。また、都市計画マスタープランは、都市計画法に基づいて策定するが、町議会の議決を経た基本構想に則して策定することが定められている。皆さんから頂いたご意見・ご提案を活かせるよう、より実効性の高いプランになるよう取りまとめを行っていく。総合計画については、9月議会での議決を予定していると思うが、都市計画マスタープランについては、今後パブリックコメントを経て、年明け頃の決定を予定しているため、引き続きよろしくお願ひしたい。
- コンサル (牧野) 数多くの自治体の審議会に参加しているが、これほど熱心で、また回数を重ねた審議会は初めてである。これからのまちづくりにあたっては、このような審議会があるべきだと思っている。宮代町の情報発信を行い、他の自治体のモデルになるとよいと思う。いろいろと学ばせて頂き感謝申し上げます。
- 事務局 普段、役場で仕事をしていると固まった考え方になってしまうが、多

- (小川主査) 様な立場の審議委員の皆様から、いろいろな意見を伺うなかで非常に刺激を受けた。
- 事務局 (立見主任) 本審議会は1年以上の期間、ワークショップでは朝から晩まで皆様とご一緒し濃い時間を過ごさせて頂いた。いろいろな立場からさまざまな意見があったが、最終的にはひとつにまとまっていくという審議の過程を共有できてよかった。
- 事務局 (伊東副課長) 総合計画の策定は2回目になるが、今回は皆様の意見を取り入れるような形で進めることができた。計画は実行するのが大事であり、ここからがスタートだと考えている。年齢的にもう一度策定に関わる可能性があることから、頑張って参りたい。
- 事務局 (榎本主幹) 総合計画を作る構想段階から関わっているため、3年程度は計画について考えてきた。今回は、審議委員のメンバー構成をはじめ、ワークショップに審議委員の皆様にも参加して頂いたこと、町の職員を無作為に抽出しワークショップを開催したことなど、実験の連続だった。反省点もよかった点もたくさんある。ワークショップに参加して頂いた市民の方も無作為であり、いろいろな方の顔が浮かんでいる。皆様の意見を全て入れることができたかといえば課題もあると思うが、ある程度は取り込むことができ、良いものができたと思っている。パブリックコメントについては褒めて頂いているご意見も多く、そのぶん気を引き締めなければと思う。現在内部の検討を進めているが、職員に隅々まで浸透させることの難しさを感じているが、今後も尽力したい。
- 事務局 (栗原課長) 足かけ2年、お世話になり感謝申し上げます。パブリックコメントにかけた資料を含め、振り返るとあまり苦労なく、ワークショップや審議会の意見を聞き、メンバーと話しているうちに自然と出てきたという印象がある。そういう意味でも審議会の皆様から率直な意見を頂けたものと思う。本審議会は13名中6名が女性であるが、半数は女性にしたいという目標がありメンバーを選定させて頂いた。本計画の案が町民に寄り添っている、柔らかい物語性があるという印象をお持ちの方がいるとすれば女性が多かったからではないか。多くの女性の意見が企画財政課のメンバーを通して文字化された形になっていると思う。
- 佐々木会長 今回座長を拝命したが、前回策定時は先輩にあたる教員が座長を務めており、流れから大役を引き受けさせて頂いた。うまくできたか心配な面もあるが、せっかくやるならなるべく良いものにしたい、新しいことができたかと考えていたが、それ以上に事務局の皆さんが新しいことに取組んでいるということ、策定を共に進めるなかで実感した。パブリックコメントは12件とやや少なく残念であったが、10年後何か違う形で実現できればよいと思う。一つだけ広域連携は叶わなかったが、計画に入れてほしいことはだいたい網羅されている。新しい試みとして、Zoomでの会議開催やパブリックコメントでの動画公開などは実現できてよか

ったと思う。良いものができたと思うが、今後が大事だと考えている。具体的な意見が多くあげられたが、これらを受け止めて、具体化する流れを今後も続けて頂きたい。そこに皆様がまた招集を受けることとなるが、今後ともよろしく願いしたい。長い間心より感謝申し上げます。

(5) 閉会

以上